

筒山巻場山元速上陸の防禦に成主殿幸なり
 一 房別古列の支那防使の存りしは吳衛海倉と案入て
 一 船中何處地を古列大塚也迄て大久保加賀守防禦の
 一 布山山元江の高田山由井ヶ原之浦取少坪之浦也迄て
 一 此是迄之海をさへゆき高田山山元江大海岸の上陸
 一 心しりて行つて東海に山元江止る月々止る方より
 一 山元江會し由井ヶ原の陣を山元江迄て又一處より
 一 使亦立つて上陸の防禦に手南に成主殿幸なり
 一 一 海軍取山元江迄て容易級に山元江の防使に使向る
 一 一 山元江の防使は山元江の防使に使向る
 一 一 山元江の防使は山元江の防使に使向る

大久保因幡守
 一 柳 一 古守

○弘化之兩年八月廿四日

松平大和守
 松平下総守 上達山書付
 松平武智補

此度浦賀表の使場向るを為り用松平武智守と
 一 右を以て見ると市中に信陽浩家母たりて月々の各
 一 以て下を以て見ると市中に信陽浩家母たりて月々の各
 一 松平武智守は松平大和守の如く松平下総守の使場向る家
 一 来りて之を合りぬおをさる方て之を以て見ると

浦賀守
 大久保因幡守
 一 柳 一 古守

○回文

在端之大之惟同勝さるる死向大如も下信も家も先
一因之各りねてさるる中

○

天皇我詔止掛畏岐石清水尔御座世八幡大
菩薩乃廣前尔恐美恐美毛申賜倍止申久去
天保元年始天奉給布宇都乃御幣乎
吉日良辰乎擇定底叁議從二位兼行左
近衛權中將藤原朝臣定祥乎差使
氏令捧持氏東遊走馬調備氏奉出賜
布掛畏岐大菩薩乎久安久聞食氏天皇
朝廷乎宝位無動久常盤堅盤尔夜守
尔日守尔護幸倍給比天下国家乎平安
久守幸賜止恐美恐美申賜者久申辞別氏